

段取碁打都合七拾三人、○中略

右者文化七八年之頃之名面也

〔幕朝年中行事歌合〕中三十二番 左 碁將碁御覽

世にすめば誰もこゝろのかちまけを石とこまとの上にみるかな○中略

碁將碁御覽は、十一月十七日、碁は本因坊井上安井林のたぐひ將碁は大橋伊藤の者どもをめされ、黒書院の廂にして御覽あり、執政の人々は庇の西に候し、寺社奉行はみな次の間に侍り、事はて、けふの勝負をえるして奉れり、安永天明の頃は、殿中伺候の輩のうちよりめし合せられし事もありき。

〔將軍徳川家禮典録 十一〕十一月十七日

一如例年碁將碁手合被仰付、午上刻、御黒書院出御、御下段御著座上覽有之、老中若年寄も出席

本因坊 安井仙知碁所 大橋宗桂 伊藤宗看將碁所 勤之

〔日次紀事 六月〕期月、圍碁將碁之徒、受祿於公方家之輩各赴東武、

〔寺社奉行支配并遠國町人御禮格式〕碁之者

一 參上之御禮四月朔日、御次一同、献上扇子一箱宛、

但本因坊並碁所へ被仰付候者は名披露、

一 十一月十七日、碁所作被仰付、御黒書院御縁頼出御、上覽被遊候、

一 十二月七日、御暇於躑躅之間、御老中被仰渡銀十枚づ、部屋住へは時服二づ、被下之、

一本因坊碁所被仰付候得ば、御暇之節、時服二、金二枚被下之、

一 外碁之者、碁所被仰付候得ば、御暇之節、時服二、銀十枚被下之、

一本因坊繼目之御禮、御次一同名披露、献上扇子一箱、